

高校通信

水高9

今月のテーマ 水高生の夏休み

今回は水産高校生の充実した夏休みを紹介

■水高生は、夏休みもさまざまな行事に参加し充実した日々を過ごします。海の日海浜清掃、さつま黒潮きばらん海（運営ボランティア、踊り連、みこし）国家資格取得のための補習などです。

創立100周年 熱く燃えたきばらん海



◎今年のきばらん海。創立100周年の横断幕と名物となったピラニアみこしで参加しました。水かけ隊に水をかけられ、元気に暴れまわりました。

■ 創立100周年記念体育祭に参加を ■

9月12日(土)本校グラウンドで体育祭が開催されます。今回は創立100周年記念として、本校OBや市民の皆様にも楽しんでもらえるような種目を企画しました。県内唯一の水産高校の特色ある体育祭に気軽に参加してみてください。



薩摩青雲丸をまるごと体験 ~薩摩青雲丸 体験航海を実施

■8月4日、鹿児島新港北埠頭で県内の中学生を対象とした薩摩青雲丸の体験航海が行われました。

生徒募集・学校PRを目的としたもので、県内から中学生・保護者など約70人が参加。錦江湾クルージングのほか、船内設備案内、マゴ口試食などが行われ大好評でした。

参加者には、今回の体験航海で水産高校の魅力を感じていただけたのではないのでしょうか。



憧れの甲子園で躍動した二人 支えてくれたみんなに感謝したい



▲瀬戸口市長に甲子園の出場報告をする二人。 右：松田君 左：原口君

■夏の甲子園に出場した樟南高校3年の原口京介君と松田涼平君の二人が8月24日、市役所を訪れ、市長に出場報告をしました。

2回戦から登場した樟南高校は8月16日、福岡県代表の九州国際大学付属高校と対戦。9回までもつれこむ大接戦の末、惜しくも1対3で敗れたものの、二人の頑張りは私たちに大きな感動を与えました。

二人に甲子園でのことや、出場までの道のりについて聞くと、目を輝やかせながら次のように話してくれました。

◎原口君：「練習は厳しく辛いことも多くありました。目指していた甲子園でプレーできてよかった。今度はこの経験を後輩たちのために生かしていきたいです。」

◎松田君：「野球は小学2年生から始めました。甲子園に出場できるというのは貴重なこと。いい経験ができました。」

そして二人とも甲子園出場を喜び、自分たちを支えてくれたみなさんに感謝いっぱいと言ったり、また、野球を通じた経験で、どんな逆境にも打ち勝つ自信がついたということでした。 私たちに夏の楽しみを贈ってくれた二人。今後の更なる活躍を期待しています。



二人の柔が全国大会へ

■県中学校体育大会柔道競技が7月21・22日、鹿児島市で行われ、個人の部で盛田勝義君（枕崎中3年・73kg級）、神村ももさん（別府中・57kg級）の二人が見事優勝。沖縄で開催される全国大会前の8月17日、市長を表敬訪問しました。

盛田君は「得意技は内股。全国大会ではベスト8を目標にがんばりたい」と話し、神村さんは「得意技は一本背負い。自分の柔道をして一戦一戦を大事にしたい」と話してくれました。また、盛田君の指導者であり、市柔道会会長の野沢利則さん（写真後列左から2番目）は「枕崎からオリンピック選手を出したい。二人には期待している」と語りました。



ソフトテニス 西日本大会で3位入賞

■西日本シニアソフトテニス選手権が7月4・5日、長崎市で行われ、豊巻浩司さん（塩屋南町・45歳）がシニア45歳男子ダブルスの部で3位入賞を果たしました。豊巻さんは、枕崎きばらん海クラブソフトテニス教室の指導者です。「いつも試合のたびに会社を空けることになり、理解してくれる会社の方には感謝しています」と語っていました。

また、7月18・19日、鹿児島市で行われた西日本ソフトテニス選手権。成年男子ダブルスの部（35歳以上）でもベスト8に入るなど、素晴らしい成績を取っています。

三島村通信

■三つの島の中で、最も早く人類が住み着いたといわれている黒島、竹島、硫黄島と比べ水が豊富な黒島は、枕崎市と三島村が密接な関係を持つきっかけとなった「黒島流れ」の舞台、それ以外にもさまざまな歴史に彩られた歴史の島です。

★黒島

▼黒島は、三島の中で枕崎から最も近い位置にあり、実証運航では、枕崎を出発して2時間後には黒島に到着します。黒島の名前は、一説には「黒々と見えるから」に由来していると言われています。枕崎から黒島を見ると、竹島・硫黄島よりなんだか黒っぽく見えませんか？黒島は椎の原木に覆われる森の島。雨の量も多く、至る所に無数の川が流れる様は、ときおり「三屋久島」と称されます。雨が多いということも、いつも雨雲に覆われているというところも「三屋久島」と呼ばれるゆえなのでしょうね。

▼今からおよそ110年前の明治28年7月24日のことでした。三島村付近を通った台風は、黒島の近くで鰻をとっていた何隻もの漁船を遭難させ、411人もたぐさんの命を奪いました。この悲しい出来事は「黒島流れ」と呼ばれ、これにより枕崎と三島の心と心の交流が始まりました。以来、「枕崎市少年の船」が先人の慰霊にと、毎年黒島を訪れ、あわせて黒島の皆さんとの交流を図っています。

枕崎と黒島は、これまでにも独自の様々な交流による、深い繋がりがあります。これから航路が整備されることにより、その繋がりがより深いものになります。皆様のお越しをお待ちしています。



きばらん海の踊り連に練習もままならぬまま飛び入り参加させていただき、元気の良さだけで特別賞をいただいています！！